

簞

会報 2018 No.29

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会



特集

76回生のアナログ青春物語

第1回ホームカミングデー「ワカタケル」ご案内	2	「第1回シニア会懇親会」ご案内	21
簞会会長・竹早高校校長挨拶	4	簞会教育基金・奨学生認証式	22
特集：76回生のアナログ青春物語	5	奨学生(第1期)の今	23
平成29年度「簞会総会」報告	12	謎解きクロス®「竹早山荘物語」	24
関西簞会だより・湘南簞会だより	13	金栗四三先生を知っていますか?	26
簞会総会講演会より	14	学校の活動報告	27
「人間と社会」夏休み体験学習	16	理事会報告	28
「第10回簞会特別セミナー」を終えて	18	Web委員会より	29
第11回簞寿会報告	20	簞会お休み処	30
第25回東京校歌祭	21	部活動 OBOG 会紹介	31

2018年第1回

tkhy-homecoming-day

ワカタケる

みずみずしい若竹のように、いつまでも若く楽しく健康でありたい・・・そんな同窓生が集いあうホームカミングデーを初めて開催し、世代を超えた交流の輪を広げてまいります。

従来の篁会総会は、竹早高校で行います。

初夏の午後、ともにあの青春を過ごした竹早の地に、ぜひお誘いあわせの上お集まりください。

2018年 6月24日 (日) 11:30受付開始 12:00～ 竹早高校内

主催 篁会 76回生 (1976年卒) 学年幹事会担当

協力 東京都立竹早高等学校

参加費1000円は、当日受付で申し受けます。

準備の都合上、参加希望者は、同封の出席ハガキをお送りいただくか
WEBサイトのフォームからエントリーしてください。

当日申し込みの参加も大歓迎です。

専用公式サイト <https://wakatakeru.jimdo.com>

2018wakatakeru



*卒業生全員が対象です。ご家族連れの参加や、車いすでの来校を歓迎します。

*名札の印字は、6月10日までの出席ハガキ到着分とWEBエントリー分で行います。
それ以降は、受付で名札を書いていただく形になります。あらかじめご了承ください。



PROGRAM

tkhy-homecoming-day

2018 ワカタケる



第二高女で地理を教えていた金栗先生は2019年NHK大河ドラマの主人公です。

写真：玉名市立歴史博物館制作のすごろく

第1部

篁会総会 12:00～ 1F会議室

第2部

新会員歓迎 ランチ交流会

13:00～ B1 多目的ホール

文京区の老舗の味などで、口福を分け合ひましょう。

第3部

各種イベント 14:00～ 校内各所

詳しい内容はWEBサイトでお知らせしています。*マークは予定です。天候などの事情で当日変更の可能性もあります。



オメガこと金子史郎先生による
受験指導書『茜雲』[1972年]
(久我芳昭74回生所蔵)

【教室棟】 就活応援特別セミナー<出演・篠辺 修 篁会会長・ANAホールディングス株式会社取締役副会長、ほか特別セミナー講師陣を予定> (B1講義室)

「三手先を読む～将棋的発想で人間関係力アップ」<初心者歓迎・実演実技つき
トークと実技指導：加藤良平76回生> (B1講義室)

ミニ展示『「茜雲」とその時代」<企画解説：小林永治76回生>(1F学校史コーナー前)

「ミニチュアアートワークショップ」<当日受付先着20名、指導：川口(斉藤)亮子76回生>(1F書道室)

みんなで「金栗すごろく」(1F書道室) *ダンス部パフォーマンス(1F会議室)

【校庭・アリーナ棟】 *校内ツアー、*テニス部対抗戦(校庭)

バレー部総会(アリーナ)、*吹奏楽部演奏(Tスクエア)

校歌を歌い継ぐ会+コーラス部公開練習(音楽室)

フィナーレ 15:50～ 1F会議室

「謎解きクロス®」(篁会報掲載) 正解当選者発表、校歌斉唱など

17:00 下校終了予定

その後のクラス会、同期会、部活 OBOG 会などは、各会の自主開催となります。
名簿の必要な幹事さんは、takamurakai@gmail.com までご連絡ください。



むずかしい話はさておき、参加してみよう

箆会会長 篠辺 修

高校 23 回生・箆 71 回生の篠辺です。

これまでの旧第二高女、現竹早高校同窓会である箆会の活動への参加やご協力に、心より感謝申し上げます。

古関前会長から箆会の会長を引き継ぎましたが、これまで箆会の活動には全くと言っていいほど参加しておりませんでした。そういう人間が会長で良いのかとも思いましたが、これを機会に、少しでも箆会の活性化のためのお役にたてばと考え、お引き受けいたしました。精一杯努力したいと思います。

さて、その箆会の活動ですが、これまで役員を始め会員の皆様の頑張りにより、着実に活性化しております。例えば、継続して取り組んでいるものとして、「会報の発行」、「奨学金の授与」、「竹早祭出店」、そして、「箆寿会開催」などがあります。そして、それらに加えて、近年は、私のような消極的な会員が多い現実を踏まえて、名簿の整理を進めるとともに、維持費用のことも考え、紙媒体からシステムでの管理に移行しました。また、各界で活躍している卒業生の協力を得て、高校とも調整し、高校生の夏休みの体験学習として「企業訪問」の実施や、卒業生を講師とした「特別セミナー」の開催なども行っています。

そして、今年は、箆会総会を竹早高校で開催し、「竹早高校ホームカミングデー」(ワカタケル)として、卒業生・同窓生の旧交を温め、懇親を深める場として、また、現役生との交流の場にしていこうと計画しています。

毎年、竹早高校から後輩が巣立っていきますが、卒業生の皆さんの中には、仕事を優先せざるを得ないかたや、箆会の活動に興味があっても参加がむずかしいかたもたくさんいらっしゃると思います。少しでも高校時代のことが頭に浮かんだら、会報をご覧になったり、箆会のサイトにアクセスしてみてください。どのような活動をしているのかを知って頂き、そして、チャンスがあればぜひ参加して頂きたいと思います。

竹早高校は、1899 年の設立以来、東京府立第二高等女学校、東京都立第二高等女学校、東京都立第二女子高等学校、そして、東京都立竹早高等学校と変遷しながら、間もなく 120 周年を迎えようとしています。この節目に向けて、箆会の活動をさらにたくさんの卒業生に知ってもらい、少しでも参加いただけるよう、各理事を先頭に、役員、卒業生有志、そして先生方と努力して参りますので、よろしくお願いたします。

ご挨拶



竹早高校校長 小林正基

高田前校長の後を受け、この度、竹早高校の校長となりました小林です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

竹早高校は平成 27 年度から導入した新カリキュラムが完成年度となり、2 年次からの文理分け、3 年次での必修科目・選択必修科目の増加(自由選択科目の大幅な圧縮)とそれに伴う朝からの全員登校、さらには、50 分授業及び土曜授業(年間 20 回)の開始と、学校がしっかりと生徒の面倒をみる体制が確立してきました。また、東京都教育委員会から指定を受けていた「進学指導推進校」の継続(平成 34 年度までの 5 年間)や「英語教育推進校」(平成 30 年度までの 3 年間指定)に加え、「理数研究校」(平成 29 年度、平成 30 年度)の指定も受け、進学指導や教育活動をより充実させています。

これらの取り組みは、「第一志望主義」を掲げた進路指導において、国公立大学への合格者増(今回の平成 30 年度入試においては新卒 42 名・既卒 8 名の合計 50 名[平成 29 年度末集計])等にもつながっています。

高田前校長が進めた「新生 竹早高校」の姿は中学生やその保護者に広く受け入れられ、毎年 1 月に発表される志望予定調査では、都立高校屈指の高倍率となるほど、近年の竹早高校への人気は高くなっています。中学生の憧れや、在校生の希望、卒業生・保護者をはじめとする多くの方々の期待に応えるには、日々の教育活動の充実にも努め、ひとりひとりの生徒が夢を描き実現できる力を育て、伸ばしていくことが大切であると考えています。

今後とも箆会の皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



76回生のアナログ青春物語

・ノスタルジー讃歌・

日曜日の8時台からドラマ、それも青春学園ものが消えて久しい。テレビがまだ白黒のころ日本テレビが始めた「青春とはなんだ」(石原慎太郎原作)はそうしたジャンルの魁にあたるのだという。1970年代に入り、学校を舞台にしたドラマがカラーテレビで放映され始めたとき、中学・高校時代を過ごしていたのが、76年卒業の私たちであった。

政治の季節が過ぎたあとのシラケ世代に向けて、友情の絆を繰り返し説く学園ドラマが次々に生まれた。「おれは男だ!」(主演・森田健作)「飛び出せ!青春」(主演・村野武範)そして「われら青春!」(主演・中村雅俊)。主題歌や挿入歌では森田の『さらば涙と言おう』や『友達よ泣くんじやない』、青い三角定規の『太陽がくれた季節』、キャンディーズもカバーした『帰らざる日のために』、中村が弾き語る『ふれあい』は大ヒットし、ミリオンセラーとなった。持ち歩くには重くて不自由なラジオ付カセットテープレコーダーで録音し、「涙は心の汗だ、たっぷり流してみようよ」といった青春の悲哀に寄り添ってくれる歌詞を求め、何度も聞くうち、テープが伸びて妙な音になる。大学受験ラジオ講座のあとは、若者向けの深夜放送にも耳を傾けた。

なかには、あのサイダーの歌とともにほっぴいえんどが解散した文京公会堂のコンサートに行ったり、小坂明子のようなピアノの弾き語りデビューを夢見たり、クラス横断で結成されたバンドRotten Peachの発音を大竹先生から授業中に指導されつつも、在学中にLP盤の自費制作をやったのけたり…偉大な先輩、山下達郎のシュガーベイブを追っかけて以来、今でもファンクラブにいるという人も。

その後、76回生はウォークマン第1世代となって、アナログからデジタルへの大変動を生き抜いてきた。今では、Youtubeにあふれた高校生の上質なビデオクリップに、感心させられる。だが、それに負けないくらい面白い昭和の青春物語が竹早で繰り広げられていた。

(山口順子・1976年卒)

写真：卒業40年記念合同クラス会(2016年12月3日、池袋Bee東口店) 前列左から芝崎先生、山田先生、濱先生、晴山先生

監督マイク・ニコルズ。主演男優ダスティン・ホフマン。主演女優アン・バンクロフト&キャサリン・ロス。1967年に封切られた映画『卒業』は、今も語り継がれるアメリカン・ニューシネマの代表的作品だ。テーマ曲であるサイモン&ガーファンクルの「サウンド・オブ・サイレンス」も大ヒット。結婚が成立する直前に教会から手に手をとって逃げ出すクライマックス・シーンは、オマージュやパロディとして、その後もさまざまな作品に使われてきた。

「ハリウッドに負けないパワー？」

「この映画の続編みたいなのが、撮れないかな。」そんな会話が交わされたのは、ハリウッドの中でも大手配給会社の中でもない。春日通りに面した某都立高校の、2年A組の教室だった。1974年、文化祭の出し物をワイワイガヤガヤと考えていた時のことである。続編というのは少し大げさかもしれない。教会からの追っ手を振り切ってバスに乗った若い二人の、その後を想像(創造)してみるのもいいんじゃないか、くらいのノリだっただろうか。ちなみに映画の原作となったチャールズ・ウェブによる同名小説は、実際に同じ著者で続編が出版されている。しかしそれは2008年のこと。小説と映画という違いはあるにせよ、34年も先駆けて「その後」を作った高校生たちが日本にいた、という事実は、たぶんこの文章でごくささやかに、記録に残るだけだろう。

「こんなエピソードを入れたら面白そうだね。」「どうせならこんな役柄も出演させたらどうかしら。」撮影の困難などまったく考慮せずにさまざまなアイデアを出す無責任パワーだけは、ひょっとしたらハリウッドにも負けていなかったかもしれない。とにかくそれなりに使えるような方向性が4つほどにまとめられた。ではその中のどれにしようか、なんていう発想をしないのが、無鉄砲というか怖いもの知らずというか、このクラスの真骨頂である。「じゃあこの4つのテーマ、全部入れたストーリー、よろしく！」脚本を任されたチームはさぞかし頭を抱えたに違いない。

それでも脚本は出来てきた。花嫁の母親は、晴れの教会の舞台上で大恥をかかせられた二人を決して許さず、何と殺し屋を雇う。一方でさまざまないきさつから、女極道からも命を

狙われることになった。事件をおこさせまいと刑事も登場するが、いつも後手後手に回るといっておなじみのパターン。それどころか、ブルース・リーをパロった謎の男に、拳銃まで奪われてしまう始末だ。さまざまな思惑や任務を帯びた登場人物たちは、最後に河川敷で一同にまみえ、決着がつけられる。

今ではまずありえないであろうエピソードも

ストーリーの中に銀行強盗のシーンがあった。「これはぜひ、実際の現場でロケしたいよね。」誰かから発せられた、例によって思いつきのそんな一言。世間知らずの16歳・17歳軍団は、アポも取らずに地元の信用金庫を訪れた。そこで支店長に直談判したら、何と彼は本店などにはかかることもせず、撮影を許可してくれたのである。それだけではない。強盗犯を追っかけて銀行から全力疾走する役目まで引き受けてくれた。ほとんどが高校生の出演という中、数少ない大人が必死になって走ってくるさまは、観客の大笑いを引き起こす名場面となった。

かくして文化祭当日。上映された映画は大人気となり、一日数回という当初の予定を返上し、ほとんど休みなしに上映を繰り返す状況になった。まだ家庭用のビデオなどない時代で、いわゆる8ミリフィルムによる撮影・上映である。2日間の文化祭が終わる頃には、ムリがたたったか、その上映機器もガタがきてしまった。たぶんクラスの誰かの私物だったのだから、改めて御礼・お詫び申し上げたい。

若さゆえの無鉄砲はもう・・・

2年A組はそのまま3年A組となり、やがて<卒業>した。しかしその後も、都内でのクラス会はもちろん、八ヶ岳の竹早寮に泊ったり、誰かの別荘に行ったりと、しばしば旧交を温めている。もちろん恩師の芝崎先生もお呼びして。一度そんな中で、この映画をあらためて鑑賞して盛り上がったことがある。それなりの社会人になった頃のこと、若さゆえの無鉄砲さは、もう手が届かないものになっていた。映画のタイトルは『卒業からの脱出』(“Escape from graduation”)。え、授業をサボって(エスケープして)制作に没頭したからこのタイトルになったのって? ...それはヒ・ミ・ツ!

(加藤良平・写真後列右から4番目)



B組

“大竹先生”という求心力への
S A M B I

B組といえば、大竹協子先生。B組ならずとも校内中に、その強烈なる個性と存在感が轟き、在学中あるいは卒業後すらも、各方面でじわじわと影響を与え続けた。良くも悪くも、英語観、あるいは人生観まで変えたと言われたその大竹先生が、鬼籍に入られたのは2009年9月29日だった。病を得たという短音を頂きながらも、訃報に接したときには、そのあけの無さに人生の無常を感じたものだ。

英語の授業開始時、教室のドアをガラリと開けて教壇に立つ大竹先生。ギロリと教室内を睥睨するその一瞬で、教室の空気全体が変わるような緊張感があったものだ。そういうこともあってか、B組はみんなお行儀もよく、お互い助け合う穏やかな仲間たちだったように思う。人生の親友を得たという人も多い。

卒業後、その開催回数が決して多いとは言えなかったB組クラス会でお見かけする大竹先生のあの大きな眼は、何年経っても変わらなかった。ただし、柔らかい笑みはその瞳の中にはあった。

卒業後25周年(2001年)のクラス会では、「あの当時の私は、今のあなたたちより若かったのよ」とその眼は茶目っ気たっぷりに笑っていた。口々に「えー!」「信じられない!」と驚く(そんなことも失礼な話しではあるが)私たちの姿を見て楽しむ母親のような、優しい眼だったように覚えている。

入学式の時には生徒会長が「生徒権宣言」を高らかにするような自主自律の校風の中、もっとも多感な人生の一季節を過ごした私たちは、41群のなかでも、竹早生でいることに、何となくトップのトップではない引け目を心中に抱えながら、それをそのまま口に出すのが「ダサイ」と思うような世代だ。しかし、厭世ムードに浸った無頼派というわけでもなかった。だから、断片的な思い出ながらも、まだ自衛隊駐屯地があった当時の西が丘の野球場でソフトボール大会をしたり(中ほど写真・大竹先生はヒットを飛ばした!)、2年生秋の富士五湖めぐりの遠足や(白糸の滝で、一部男子が滝上まで行き集合時間に遅れ、大竹先生に大目玉を喰らう! 右上集合写真)、



小豆島・金比羅めぐりの修学旅行(ホテルのベランダ伝いで部屋間の移動あり、女子部屋に「オトコがいる!」という芝崎先生の怒声)など、甘酸っぱい思い出がそれぞれの胸に蘇る。結構それなりに素直に高校生生活をエンジョイしていたのだ。

「これが竹早なのよ」

大竹先生の厳格なる授業のおかげで、英語が嫌いになって文系志望から理系に変更してしまった人も、逆に英語がその後の職業人生で役立ったという人も、3年B組最後の竹早祭では、「SAMI」(3Bと“賛美”の二つの意)という名前の喫茶店を出し、大竹先生を真ん中に求心力があった暖かなクラスだった気がする。

還暦を迎えて、級友からはこんな先生の思い出話が寄せられた。志望校受験失敗の報告に際し、大竹先生は障がいを持つご子息の話をしながら、「健康であることがどれだけ恵まれていることか、感謝しなさい。若い時の浪人の1年なんてすぐ取り戻せる。前を向いて頑張りなさい」と励ましてくれた時のこと。卒業後人生の岐路に立ち精神的に辛かった時に、大竹先生が通っていたキリスト教会に同行し一緒に祈ってくれたこと。クラス会ではそれぞれ中年に差しかけた面々をみながら「これが竹早なのよ。一流大学を卒業したわけではないけど、みんなその後が“すごい”のよ」と、我がことのように嬉しそうにしてくれたこと。シンガポールで大竹先生のお嬢さんが理研のシニア研究者として流暢な英語を駆使して研究発表をされている姿に、かつての大竹先生の姿を見たこと、等々。

あの日、教室の窓からヒラヤマ杉に宿る巣からカラスのヒナ3羽が巣立つのを見届けた私たちがいた――。そしてまた、一つ暦がめぐっていくのである。

(代表執筆・伊藤(八木)実佐子、中ほど写真右ピッチャー、左2002年クラス会写真・後列左から2番目)



私たちが竹早高校へ入学したのは1973年4月。都立高校第41群としての募集人員は、小石川高校が男子270名・女子135名に対して、竹早高校は男女とも135名の同数だったが、竹早高校に入学した人数は若干ながら男子が上回っていた。そして、私たちが3年に進学した時に、竹早高校の歴史で初めて在校生の総数でも男子数が女子数を越えることになった。

担任・山田徳蔵先生の優しさ

2年進学時にクラス替えがあったただけだったので、2年C組の男子23名・女子22名がそのまま3年C組になった。2年間を共にしたとはいうものの、試験的に選択授業を多くした学年だったので、特に3年生の時はクラス全員が参加する授業の方がコマ数としては少なかった様な気がする。今になって振り返ると、クラスの皆が仲良くなる様に担任の山田徳蔵先生(国語担当)は腐心されていた。山田先生のご提案により、頻繁に席替えが行われた。男女が市松模様に乗るルールなので、前後左右は異性になる。女子の発案で鏡開きの日に教室のストーブでお汁粉を作り、山田先生をお誘いしたところ、「教室のストーブで調理するのは規則違反なので、私は辞退します。」とのことだったが、私たちが食べることには目をつぶってくれた。卒業式の日には、卒業証書とは別に山田先生はクラスの生徒一人一人のいいところを見つけて、全員に表彰状を手渡ししてくれた。

歌の記憶数々

3年C組の歌もあった。A君とN君が作詞、K君が授業中に作曲。「徳蔵さんもさあ行くぞ〜、明日に生きる、明日に生きる、強い心」と担任の山田徳蔵先生も登場する歌詞で、Nさんは今でも歌えるとのこと。

また、大塚に大日本愛国党という右翼団体の本部があり、党首の赤尾敏は銀座の数寄屋橋交差点で演説をすることを日課とした。毎日、党首を乗せた大日本愛国党の黒い宣伝カーがすごい大音量で軍歌をかけながら、竹早高校の前を通過した。宣伝カーが高校前の信号で停まると、うるさいので授業はストップ。毎日のことだったので「出征兵士を送る歌」の歌詞を覚えてしまった。



文化祭の力作のあと…思い出は尽きず

2年の時の竹早祭では8ミリ映画「16:15 発」、3年の時は「和風喫茶・東風(こち)」という模擬店を出した。8ミリ映画も模擬店も、クラスの一体感の醸成に大いに寄与した。模擬店という軽いイメージだが、内装と外装(特に段ボールを加工して作った瓦と竹の塀)にかなりこだわっていて、文化祭の作品として胸を張れる出来栄であった。



竹早祭の夜だけでなく、一年に数回のペースで、高校卒業後に備えての勉強会(?)を開催し、毎回男女合わせて10人以上が参加した。池袋の東武デパート地下1階のマルチテレビの前で集合して、池袋のロサ会館周辺へ繰り出した。マルチテレビとかロサ会館はまだ残っていて、西一番街とかロマン通りという名称も当時のままだが、「紫苑」「マイアミ」という喫茶店を含めて、当時の思い出のあるお店は全部無くなり、ロサ会館周辺は高校生には相応しくない場所になってしまった。

今年の特集テーマは「76回生のアナログ青春物語」だが、K君はデジタル式の腕時計を持っていた。黒画面に時刻が赤く表示されるだけの時計だったが、当時としては最先端で10万円位する高級品だった。K君は始業・終業時のチャイムの音とデジタル時計の表示を見比べて、チャイムの音の間隔が1秒であることを発見した。

当時はまだ東京ドームではなくて後樂園球場の時代だったので、屋上からジャンボスタンドを見ることができた。照明が点灯された後樂園球場はカクテル光線がキラキラしていて綺麗だった。私たちが2年生の秋(1974年秋)に巨人軍の長嶋茂雄選手が現役引退し、その引退セレモニーには複数の生徒が出かけていった。また、ハイセイコーという馬が高い人気を誇っていて、1973年の日本ダービーと1974年の天皇賞ではタケホープが大本命のハイセイコーを押さえて優勝した。小石川高校vs竹早高校を意識して、留飲を下げる生徒がいた。

天気の良い日は教室から富士山が見えた。壁の落書きに富士山が見えた日が記入されていた。

C組では永らくクラス会を行っていなかったが、2016年12月の合同クラス会で久しぶりに山田先生・男子9名・女子10名が集まった。

(森岡弘之・前列左から二人目)

D組

暑い夏の映画秘話

D組は、誰もが認める校内きっての個性派集団だった。進路指導に熱心な担任濱和廣先生のもと、真面目に授業に向き合う多くの女子がいて、部活、学業、遊びと別々の方向を向く男子がいた。学級委員の私は、何かにつけて協力を得られないクラスの面々に、いつも声を荒げていたように記憶している。「最後の竹早祭でクラス映画を作ろう」とY君が提案した時には、驚きの??映画製作って、皆が団結しなきゃ出来っこないよ!!

彼とは反発し合っていたのに、なぜ、私は、この企画に乗ってしまったのだろう?多分、このまま何事もなく、高校生活を終わらせたくなかったのだと思う。その思いは、クラス全体に広がり共有できたからこそ、映画製作が実現したと思っている。

クラス一丸となって



筋があるようでない台本(寺内組組長が殺され、対立する鈴木組との抗争の中、真犯人探しをする)には、一世を風靡した刑事ドラマ

「太陽にほえろ!」のエッセンスを折り込み、その容姿から配役された寺内貫太郎や刑事コロomboが登場し、明智小五郎や少年探偵団も加わって・・・担任の検閲をすんなりと通過できたのは、テーマの定まらない不可解な内容だったからのようだった。

当時は、ガリ版印刷しかなく、脚本ひとつとっても、多くの人手が必要だった。高価だった8ミリ映写機を家から持ち出してくれた人。葬式のシーンでは、親の喪服を着付けて、色気溢れる姉御を演じてくれた人。決闘シーンは、小石川植物園の芝生の上、モノクロ撮影だが、出血を模した大量のケチャップを塗り、草蒸れの熱気の中で、何時間も死人として倒れてくれた大勢のエキストラたち。真夏の撮影ただだけに、いつでも、皆、全身汗まみれだった。それぞれが予備校の夏期講習の日程を抱え、何度も何度も頓挫しかかったけれど、各々の個性が息を吹き返し、邁進した。そうして完成したのが『ブルーオクス血文字の謎』。皆の血と汗と涙の結晶だ。

手放せなかったガリ版刷りの文集

今、私の手元には、映画完成を記念して、皆から集めた原稿を編集したガリ版刷りの小冊子がある。編集者に名前を連ねているとはいえ、42年間手放せなかった。これは、青春の貴



重な財産であり、D組のクラスメート皆の思いだ。Y君の感想に「すべてが終わった今、我々の心の中には満足感が満ち、体の中には心地よい疲労がある。とにかく、やった、やったのである」と書かれている。担任からは「クラス全員が何らかの形でバックアップして出来た作品であることは事実であり、内容より協力過程が評価されてよい映画であることは間違いない」と寄せられている。

人生に流れ続ける熱情

私達の心に秘められた熱情は、受験だけでなく、その後の人生の選択にも確実に生きている。

そして、個性豊かなメンバーが40年の時を経て、再結集したのが、「もりくらゆり」公演であった。高校生活で撒かれた種が、花を開くのである(箆会報26号掲載)。

60年の人生の中で、才能溢れた優秀な人々に囲まれて過ごしたのは、唯一竹早高校だけだ。この3年間という僅かな時間がどれだけの重さを持って人生を支配してきたのか、思い知らされている。

このまま、ずーっと繋がっていききたいし、繋がっていることが、たまらなく嬉しい。

(佐々木(副島) 章子、中ほど写真・中列右から2番目、42年後は19ページ参照) 下は2015年クラス会。



端から脱線で恐縮だが、8学年上の姉も竹早OG。小学生低学年のころ、運動会に連れていかれ大勢の女学生に囲まれ、圧倒された記憶がある。当時は男女別のクラス編成で、女子クラスの席でお世話になった由。運動会では、女子4クラス男子2クラスが白組と紫組に分かれたそうだ。紫組というのも竹早らしい。「ムー・ちょんちょん、ラー・ちょんちょん、サー・ちょんちょん、キー・ちょんちょん、ムラサキ、ムラサキ」の応援合戦の掛け声は、今も耳に鮮やかに残っている。私の時代は、運動会に代わり、季節ごとに球技大会や創作ダンスの発表が行われた。

さてと、本題に入ろう。

その一、「竹早祭」

2年生時の出し物は舞台劇「美女と野獣」。

3年生では、人形劇「トロイ戦争」。どうも芝居好きが潜んでいたようである。

「美女と野獣」。普段はバイロンの詩集を小脇に抱え、孤高の雰囲気漂わせたMくんも、照れずに野獣役を熱演。まだドンキホーテなどない時代、美術好きや工作好きの面々が奮闘し、衣装・小道具を器用に作成。稽古は演出家が熱く指導。やはり芝居好きがいた。

3年秋は人形劇。舞台をトロイ戦争神話に求めたあたりは、担任桑原啓善先生(世界史)の薫陶躍如というところ。奇跡的に、手書きのガリ版刷り台本(写真)が残っていた。台詞が細かな字でびっしり書かれ、老眼じゃ読めないなど時間の流れを痛感させられた。この人形劇はとにかく準備に苦勞。パペットや舞台・書割等の製作に加え、ディスプレイに実物大の盾や剣、遺跡の模型にまで手を広げてしまい、最後は突貫工事。ここでも美術好き、工作好きが大活躍して、みんな勉強など忘れて、楽しんでたなあ。

その二、「修学旅行」

2年生も終わりの春は修学旅行。生徒の自主性を重んじ、旅行先は多数決で「倉敷-高松(金毘羅宮)-小豆島の3泊4日」コースに決定した。準備・運営も旅行委員がリード。そんな委員の皆さんの苦勞をよそに、我がEルームはバスガイドさんから「こんなに盛り上がり欠けるクラスは初めて」とお小言を頂戴。高松の宿舎に着くと緊急招集がかかりミーティング。相談の結果、バスの座席をくじ引きで男女市松模様の配置にするなどの応急策。今、振り返ると苦笑い。

あの頃は、浮かれることを気恥ずかしく感じただけなのだろうと今は独り言ちたり。



でも、3年秋のバス旅行では車中、アカペラ歌合戦で大盛り上がり。気分屋なクラスなだけかと再度、苦笑い。



その三、「海水浴」

3年生になると選択科目の授業が増え、顔を合わす機会も減り、気が付けば夏休み。まだ夏なのに、お互い「隣は何をする人ぞ」状態。それではいけないと、Mくんの音頭で一泊海水浴旅行を計画。8月末の外房(上総一ノ宮)は残念ながら波が高く、砂浜で甲羅干し。夜は車座になり怪談大会。照明を落とし暗がりの中、天井からゴキブリがポトリ。ヒヤッと一同逃げ出し大騒ぎ。幼稚だな。でも、よい思い出だ。

番外編、「わが巨人軍は永遠に不滅です」

2年生の秋。10月14日午後、長嶋最後の雄姿を一目見ようと後楽園球場へ向かう者多数。教室に残された者は、空席の説明に難儀した。

さて、月日は経ち紅顔の友たちも今や還暦。交友は大いに深耕し、新年会に始まり、春は播磨坂に夜桜を楽しみ、夏が来れば暑気払い、そして秋はクラス会で締めるといふ具合に理由をつけては集いを重ね、「学生時代よりずいぶん仲間良くなったね」という声も、ちらほら聞こえるEルームの此の頃である。

(森田一夫、上段写真、前列右端、その42年後は2016年11月12日クラス会写真、後列右から2番目)



E組

我がよき時代、よき友よ

よき時代とは、振り返り懐かしむ時か、それともまだまだたくさんあるこれからの時か。

いずれにせよ、よき友は変わらずにいてほしい。

高校時代 … クラスが一つに

3年F組 晴山文男先生。

みんなの印象は褒めて伸ばしてくださる先生、穏やかで、独特の語り口で和まして頂いた。それは今も変わらない。

私たち46名は、晴山先生に見守られ、比較的まとまりのあるクラスだったと思うが、球技大会、柔道大会、創作ダンス等の学校行事では、みんなが結束して臨んだ。女子の「時計」をテーマにしたダンスでは、運動部のように朝の特訓もやり、学校代表として都大会への出場を果たした。

特に印象に残るのは、3年の文化祭で映画を制作したことである。題名は「亡夫の遺産」というサスペンス仕立て。監督、脚本、編集等の制作全般の中心だったのは、巨匠N君、彼なくこの作品は生まれなかった。時は受験勉強まっ只中の夏休みと秋口、色々な所でロケを行った。受験勉強するしかなく暇だったのだろうか、みんな結構、積極的に参加した。キャスティングの妙もあったと思う、脚本があったわけ

でもないのにストーリーは展開した。出演者は写真に登場する者たち、当時流行っていた「ハッスル」の音楽に乗り、エンディングで紹介される私たち全員である。当時はリールに巻いた8ミリテープであったが、切って貼って編集し、クラスみんなが一つに繋がった。映画は、この写真、Hさん、Yさんが描いた卒業アルバムに載る作品とともに、心に残る名作である…自画自賛。

卒業後 … 菊屋、ありがとう。

菊屋、銀座にある知る人ぞ知る名店である。Y君が大学時代から店を手伝い、今日まで守ってきた居酒屋で、ここが私たちのたまり場、クラス会の拠点である。私たちのクラス会は、卒業した

年の八ヶ岳寮から始まり、その後、数年に一回というペースで開催されていた。それが十数年前、幹事長のK君が提唱し、「三金会」と称し、第三金曜日に来られる人が集まって菊屋で飲

むことになった。さすがに毎月とはいかなかったが、メールという連絡手段、時間も人数もわがまま放題の場所があることで、年4回は開催された。晴山先生も何度か、一升瓶を片手にいらっしゃったり、前ぶれなくふらりと来る者もいたり、概ね十数名は集まり、和気あい

あいと過ごしていた(左下写真)。

その他の活動では、I君が某中央官庁の公務員から転身して、長野で果樹園を経営して30年近くになるが、有志による援農という名のもとに、役に立たない迷惑者たちの果物狩りツアーも6回行われた(右上写真)。

しかし、クラス会に加えた、こうした私たちの交流も還暦とともに転換期を迎えることに。菊屋が70年続いたその暖簾を下ろすことになったのである…一大事。



これから … まだまだ長い人生

私事だが、勤務する会社の還暦企画で「私の履歴書」を執筆した。某新聞で連載されているような代物ではないが、自分だけの一冊の本にしてくれる。55歳にして大学看護学科に入学し、医学博士にして今、看護師として勤務するK君、45歳過ぎてから弁護士の資格を取得したA君など、他にもクラスには特筆される人もいるが、誰にでも振り返ってみれば、その人なりの物語があると思う。今や100歳時代という声も聞かれるが、この企画は、まだ30年ある人生を踏み出す第一歩にするという趣旨でもあった。振り返る思い出も大事だが、まだまだ長い人生、これからをどう生きるかも大事ということであろう。

還暦を振出しに、気持ちを新たに、とは言えあまり長く先を考えるのは気が重いので、今、稀とは言えない70歳をまず目標に頑張ってみましょうか。そのためにも、皆さんには、もう少しお付き合い頂きたいと思う。

さあ、新しいみんなのたまり場を探しましょう。

(近山隆久、右上後列左から2番目)





平成29年度 篁会 総会・講演会

平成 29 年度篁会総会は平成 29 年 6 月 17 日(土) に、文京区湯島の東京ガーデンパレスで開かれました。幹事学年は 1975 年卒で、出席者は来賓を加えて 103 名でした。幹事学年は、この日に備えて各クラスから幹事を選出して準備会を開き、企画を練りました。その中で、同じ幹事学年が担当する会報のページは学年全体で担当するというアイデアも生まれ、平成 28 年 11 月に開かれた同期会の席上でアンケートを配布して自らの高校生活を振り返っていただき、その結果を踏まえてクラス毎の原稿を作成しました。

午後 3 時半からの総会では、事業報告、会計報告・監査報告および新会長選任が行われました。事業報告から監査報告までの議事は例年通りということもあり円滑に進みました。ただし、単年度で見ると多額でないとはいえ赤字財政でした。昨年の会報で卒業年次毎の会費納入状況が紹介され、50 歳代より上の世代によって当会の財政が支えられていることが示されましたが、この不安材料が解消されていないことが再び浮き彫りにされました。続く議題は新会長の選出で、任期満了で退任した古関会長(1977 年卒) に代わる新会長に推薦されたのは篠辺修氏(1971 年卒) でした。篠辺氏は最近まで全日空の社長を務めていた経済界の重鎮で、篁会の運営に新風を注がれることが期待されます。満場一致で新会長として承認されました。

午後 4 時半からの講演会では、1975 年卒の 2 名の方に 30 分ずつの講演をしていただきました(講演要旨後掲)。どちらの講演とも、高尚なテーマを一般の市民の生活に結びつける内容で、聴衆の心を惹きつけました。もっと長く話を聞きたかった、との声が多かったです。

懇親会のプログラムは概ね例年通りのもので、新会長からの挨拶、来賓挨拶等がありましたが、それに加えて、元教員の本多英男先生が最近出版されたスポーツ用語辞典の竹早高校への寄贈が行われました。幹事学年の参加者に、NHK テレビ「おかあさんといっしょ」で歌のお姉さんを務めていた歌手のしゅうさえこさんがいました。2 年前の篁会懇親会で、1972 年卒でビオラの川口幸子さんと一緒にミニコンサートを開いたことは記憶に新しいですが、今回も登壇してくださいました。しゅうさんのリードのもと、身振り手振りを交えての「幸せなら手をたたこう」の合唱が始まり、昔はまじめな生徒だった篁会会員らしく、参加者一同が体を動かして歌って踊って、会場の熱気が高まりました。最後に、次回は、卒業生に、若いも若きも、母校に足を運んでいただくために、ホームカミングデイと抱き合わせで総会を開くとの紹介が、次期幹事学年からありました。どのような会になるのか、とても楽しみです。

(松永茂樹・1975 年卒)

■ 総会・講演会



旧会長に花束



新会長挨拶



新旧会長と高田元校長先生

高田元校長先生は、2018年3月7日に急逝されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



関西篁会だより

関西篁会 幹事会

平成28年度関西篁会総会は平成28年11月25日(土)に例年通りホテルグランヴィア大阪で開催する予定でしたが、幹事以外の参加者がおられず残念ながら総会は中止とし、幹事会としました。次回の総会は幹事会の話し合いで2018年11月28日(水)の平日開催としました。関西在住の同窓生の皆さま、奮ってご参加下さい。最後に篁会の益々のご発展をお祈りします。



湘南篁会だより



平成29年5月10日、総会・懇親会を、例年通り「鎌倉プリンスホテル」で行った。本部から会長のご出席があり、本年の総会で会長が交代されるとの報告があった。懇親会は、恒例の松本前会長(高女41回生)の乾杯で始まり、食後は、本年は出席者が少ないこともあり、講話は取りやめ、出席者全員に近況報告をしていただいた。なお、30年度の総会・懇親会を、5月10日(木)12:00より、「鎌倉プリンスホテル」で行います。今回は、本部で会長交代がありましたので、新旧両会長をお呼びする予定です。地域外の方も奮ってご参加ください。

デザイン心理学で よりよい社会を

千葉大学大学院工学研究院
デザイン心理学研究室★¹

日比野 治雄 (1975 年卒)



Evidence-based Design の時代

近年あらゆる分野で「科学的な根拠」が求められる機運が醸成されている。「説明責任」という言葉をよく耳にするようになったのも、そうした世の中の潮流を示すものであろう。デザインの領域も例外ではない。いまだにデザインは感性のみに関わりのある対象で、科学とは相容れないと思われるようだが、それは大きな誤解である。すでに欧米ではデザインの分野においても evidence-based design(科学的根拠に基づいたデザイン) の重要性が認識されるようになってきている。

人間の非合理性を科学する

人間の心は複雑であり、色々な思いが秘められている非合理的なものだと常々学生に教えている。たとえば、80代の方々にインタビューをしてみると、客観的には明らかに高齢であっても、まだ高齢者用の製品など必要ないと考えている方が多いのである。このように、「心の問題」を科学的に捉えることの難しさを、長年人間を扱っていると再認識させられる。当デザイン心理学研究室では、このような非合理的側面を有する人間を扱った多くの研究を通して蓄積した知見を基に、人間の心理的な諸特性を考慮するデザイン手法に関する特許★²も取得している。

デザイン心理学を社会に活かす

当研究室は、上記の知財を基に千葉大発ベンチャー(株) BB STONE デザイン心理学研究所を設立し、デザイン心理学というユニークな視点から一般企業のデザインに関する問題解決に貢献する活動を開始した。当ベンチャーは、多様な領域における広義のサービスを提供し、誰もが使いやすく、見やすく、間違いを起こしにくく、しかも心地よい、そんなデザインを生み出すことでより良い社会の実現を目指している。実際、すでに多くの具体的な成果も出している★³。

千葉銀行の「ちばぎんひまわりラウンジ津田沼」では「光・音・色」の設計に携わり、科学的に検証された心地よさを実現した。機能的でありながら、訪れた人に落ち着きを与

え、相談しやすい雰囲気を光で醸し出し、色彩の心理的効果から、圧迫感を軽減する暖かみのある色調を取り入れて入店へのハードルを下げ、会話を妨げず、会話が途切れても居心地が悪くならず、常に活気を感じさせられる空間を音で演出した。

ダイキン工業(株)のルームエアコン「ラクエア」のリモコン(図1参照)は、眼球運動の測定などから人の行動を分析し、ユーザビリティの向上を図った。ボタンはわずか4つ、温度調節はダイヤル式で回転させるだけで済み、機械操作が苦手な高齢者でも、人に聞かずに使える(2012年グッドデザイン賞受賞)。



図1 あまり使わない機能でもなくなると不満を感じるという人間の特性を考慮し、あまり使わないボタンは半透明のフタで覆うという仕組みを取り入れ、外見をすっきりさせた。

最新例では、(株) イプサのリップスティックの選択サービスシステム[10(テン)ピクチャーズ：人間の無意識を導き出す IAT(Implicit Association Test) 技術を応用した測定によって得られた結果を基に選び出す印象解析ツール]構築を共同で行い、好評を博している。

以上、微力ながらよりよい社会の実現に寄与したいと頑張っている。

若い後輩たちへ

本稿の文脈から外れるが、60年以上生きて来た先輩として一言。竹早時代の私もそうであったが、将来の進路に迷っている人は多いと思う。そのような時は、他人の意見に流されず、自分の直感を信じよう。私はもともと楽観的なので、“Let it be”あるいは「ケセラセラ」(どちらも有名な曲名である)が座右の銘である。ものごとはなるようにしかならないし、自分で選んだ道ならどうなっても諦めがつく★⁴。

★¹ <http://designpsychologyunit-chiba-u.jp>

★² 特開 2015-028800 号

★³ <http://www.bbstonedpu.com>

★⁴ <http://toshin-sekai.com/interview/18/>

ダボスから見た日本

キリンホールディングス株式会社代表取締役副社長
兼キリン株式会社常務執行役員

西村 慶介 (1975年卒)



2017年のダボス会議

世界中の有力な経営者、政治家、学識者等が集う世界経済フォーラム (WEF) の年次総会、通称ダボス会議に2013年から5年連続で参加している。その中で感じたことを中心に、「ダボスから見た日本」と題して講演を行った。

2017年は、『俊敏で責任あるリーダーシップ』というテーマの下、英国のEU離脱やトランプ政権の誕生によって懸念される自由貿易の危機、中東、東シナ海、朝鮮半島を中心とした地政学的リスクの高まり、AIの進化がもたらす社会への影響など、今日的課題が取り上げられる一方、気候変動、教育、貧困、環境、人権、難民といった継続課題についても議論が行われた。政界からは習近平中国国家主席、ケリー米務長官、メイ英国首相などが登場した。世界の大企業のトップもこの時期ダボスに集結する。会議場と周辺のホテルを会場とし朝から晩まで並行して多数のセッションが行われ、中には一般には全く非公開の、限られた要人のみのセッションやプライベートミーティングも開かれる。

存在感希薄な日本人

ダボスで感じることは、日本の存在感の希薄さ。世界第3位の経済力を持ちながら、日本が関わるようなアジェンダは極々少数。中国の台頭や北朝鮮リスクのコンテキストの中で顔を出す程度。世界が抱える多くの問題解決の取り組みで日本に大きな役割が期待されているという感じはない。島国日本の能天気な平和ボケはいかんともしがたい感じがする。シリアの難民受け入れの問題やISによるテロ対策など、多くの日本人には他人事でしかない。関心があるとすれば、世界で最先端に行く高齢化社会をどう克服していくかぐらいか。

和食への関心の高さ

そんな存在感のない日本がダボスで脚光を浴びることがある。「ジャパンナイト」という日本が主催するディナーパーティーだ。会期中、数あるパーティーの中

で最も人気があり、2017年からは入場者制限がでるほど。人々のお目当ては寿司を始めとした和食とSAKE。少々情けない感じもするが、世界遺産「和食」への関心の高さを実感する。

これからの世代に求めたいこと

日本の政財界からも毎年大臣級の政府関係者や大企業の会長や社長が参加しているが、欧米や諸外国の参加者との決定的な違いは、用意した発言や質疑から外れたところで議論ができないこと。欧米の企業の経営者たちは、自分たちが属する国、産業、事業周り以外のことについても、明確な意見や主張を持っている。経済はもちろん、政治、さまざまな社会的課題に関する幅広い知識と、それらを支える豊かな教養を有し、深みのある建設的な議論を組み立てることができる。

これからの世界はますます相互依存を深め、ITの発展で世界中が高速で繋がるようになっていく。その結果、一つの課題を自国や自社だけで解決することはできず、多くのステークホルダー間の複雑な利害調整や交渉が避けて通れない。また企業に対する社会の期待も単なる財やサービスの提供者だけでなく、社会的課題の解決者としての貢献も求められる。今まで以上にグローバルな視点と明確な主張、交渉力が必要になってくる。

語学力はもとより、社会に対する関心、そして豊かな教養を身につけた国際人を育てていくことは喫緊の課題である。竹早の後輩たちには是非、広い世界に向かって果敢にチャレンジしてほしい。



「人間と社会」夏休み体験学習

JR 東日本 安全研究所

2017年8月4日 参加者：16名

JR 東日本 田端新幹線車両所

2017年8月9日 参加者：30名



世界の鉄道技術をリードしてきたJR 東日本の研究施設と新幹線の車両管理の現場を見学しました。安全を迫っている安全研究所ではAIなど未来の安全システムの成果を、新幹線車両所では運転台で操縦体験をしてもらいました。
(古山浩之助・1968年卒)



大橋 紀行 (高校1年)

今回の体験で一番に感じたことは「すごい」の一言に尽きるだろう。2つ訪れた内の1つ、研究開発センターでは安全に関する研究や次世代への開発を見せていただいた。センターの方の話やその様子から、研究開発や安全への熱意が感じられた。もう一方の新幹線車両センターでは、私の想像を超えるものばかりであった。その中でも特に驚いたのは、ネジなどをたたいてゆるみを調べる打音検査だ。体験させてもらったが当然当たるはずはなく、検査員の苦勞が感じられた。これらの体験は普段できない貴重なものであった。また、私たちの生活は裏方が支えていると感じた。その裏方の方々に感謝しつつ生活をしていきたいと思う。

味の素 川崎工場

2017年8月7日 参加者：44名

AJINOMOTO

普段何気なく口にしている調味料が、どの様に製造されているかを見学して、その過程で多くの職業・職種の人が携わっていることを知ってもらうことにより、将来の進学先、就職先の選定に参考にしてもらえたらと思ひ実施しました。また、工場が如何に周囲の環境に配慮して操業されているかを知ってもらえたいと思ひます。
(橋本正己・1971年卒)



吉永羽映美 (高校1年)

今回、私は味の素工場の見学に参加し、何気なく使っている味の素製品が出来るまでの過程を見せていただき、テレビなどで見るのとは違った迫力を感じることが出来ました。また、私たちに馴染みの深いうま味成分について勉強させてもらい、うま味は日本人が発見したことから、今では世界共通語になっていることを聞き、とても驚き、そして誇りに思いました。だし汁を使うことで少しの塩味だけで十分なうま味に変わることも教えていただき、身を持って味を感じることができ、とても不思議で楽しかったです。貴重な体験をありがとうございました。

味の素訪問を引率された橋本正己様は3月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

竹早高校では1年次、1単位(35時間)の「総合的な学習」で、道徳的な学習とキャリア教育の内容を一体的に学習する「人間と社会」を取り入れています。昨年までは体験学習の10時間分を、ボランティアを中心に充当していましたが、今年度からボランティアの他にインターンシップ制度を取り入れるということで、篁会が中心となり、卒業生が所属する5つの機関で1年生を受け入れました。初めての試みで心配もありましたが、在籍237名中149名の参加がありました。

全日本空輸 羽田空港第2ターミナル、機体工場

2017年8月22日 参加者：31名



羽田空港に行っても普段見ることのできないところを見てもらうことにした。初めに、空港のスタッフ部門を廻り、パイロットや客室乗務員など、飛行機を飛ばすためにどのような人達がどのように仕事をしているのかを見てもらった。その後、整備場に移り、大型ジェット機が3機収まる大格納庫と整備作業中のボーイング777や787を視察した。どの職場も臨場感は十分にあったものと思う。
(篠辺 修・1971年卒)



小館颯太(高校1年)

「飛行機オタク」と僕は一体何回他人にそう言われただろうか。そんな僕だが実際目の前で旅客機を見るのは実に十年振りだった。目の前で整備されている最新機のボーイング787-8型を見学し、更に特別にコックピットに入れさせてもらった興奮は今でも忘れられない。そして、そのような旅客機を適切な場所に誘導し、旅客の誘導や荷物の受取、管理も行っているANAの方々の姿にもとても感謝させられ、「いつか自分もそんな人たちになってみたいな」と思うようになった。こんな貴重な体験を僕たちにさせてくれたANA、そして篁会の方々にもう一度心から「ありがとう」と言いたいです。

東京大学 農学部

2017年8月22日 参加者：18名



海洋の未利用生物資源から有用物質(例えば医薬品)を探している水圏天然物化学研究室と、生体内で重要な機能を果たしているタンパク質の構造解析を行っている生物構造学研究室を見学しました。
(松永茂樹・1975年卒)



尾崎慎之介(高校1年)

8月22日、僕は「人間と社会」の活動として東京大学農学部を見学した。普通は入れない研究室の中では、見たことのない機械や最先端の実験器具がズラリと並んでおり、その凄さに圧倒された。さらには日本人の学生だけでなく、海外からの学生もたくさんいて、さすがは東大という感じだった。施設見学の他にも、大学生の皆さんから直接お話を聞くことができた。自分たちが高校の時、どんな風に勉強していたかとかいつ頃進路を決めたかなど、今の僕たちにとって役立つ情報ばかりだった。このような滅多にない貴重な体験をすることができて本当に参加して良かったと思う。

「第10回 篁会特別セミナー」を終えて

Date

卒業生が現役高校生に向けて、進路選択の一助となるように、自身の受験や大学生活、社会に出てからの仕事体験を語る特別セミナー。今回でちょうど10回目となります。その生い立ちは、2008年に当時の浅田校長と篁会の磯貝会長のご尽力により、高校の総合学習の一貫として、さらには文部科学省の推進していた「生きる力」の増大に役立てる施策として、高校と卒業生、教師と父母の会の相互の協力で開始したものです。

本番に先立ち、6月19日には1年生全員の前でガイダンスを行いました。生徒の選択の手掛かりになるように、全講座を3つ（海外で仕事を経験した話、主に理工系の仕事に関連する話、主に文系の仕事に関連する

話）にグルーピングして説明し、各自が興味のある2講座を選択。セミナー当日の7月19日（水）午後、1年生237名に対し、18名の卒業生が、5時限17講座、6時限17講座、計34講座を行いました。今年は講師陣の若返りをはかり、テーマも宇宙開発などを加え、未来への夢と希望につながる話を多く語っていただきました。

1年生は入学してまだ3カ月ほどですが、本セミナーを自分の将来を考えるきっかけにして、今後のそれぞれの勉学の参考していただければと、スタッフ一同から願っています。

（特別セミナー委員会 高倉孝生・1971年卒）

「留学と海外への就職」



水田 茂夫
外資系投資銀行
(東京大・教養学部)

「工学系大学教授は、普段、何をしているか？」



吉川 弘道
東京都市大教授
(早稲田大・理工学部土木工学科)

在校生より

信頼関係の基礎は相手とわかりあうこと。これから自分も実践しよう。

「プロジェクトマネージャーの仕事、人生に与える大きな変化について」



山崎 憲一
日揮
(早稲田大・理工学部資源工学科)

「理系から大転換、色々あってクロックスの社長に」



藤田 守哉
クロックスジャパン
(東京水産大・海洋物理学科)

「元ダメ学生がアラブに魅了されたのは!？」



岩口 龍児
アラビア語コンサル
(立教大・法学部)

「やり直せる」という言葉を聞いて、あせりすぎるのもよくないと認識。

在校生より

今成績が悪くても、興味のあることを見つけて勉強することで、やりたい仕事が見つかるかもしれない。

在校生より

「香りと味の合成：薬からフレグランス・フレーバーへ」



湯浅 良文
高砂香料
(東京薬科大・薬学部)

「理系人間の海外体験」



出倉 均
東芝
(早稲田大・理工学部電気工学科)

在校生
より

将来の夢は薬剤師。
処方箋にはたくさんの
情報がたくさん詰まっ
ていることを知って、
とても驚いた。

「調剤薬局の薬剤師の
役割」



佐々木 章子
薬剤師
(千葉大・薬学部)

「宇宙開発の仕事と
進路決定」



井上 智也
JAXA
(法政大・工学部機械工学科)

「好きなことを
仕事にすること」



しゅう さえこ
歌手
(東京芸大・音楽学部声楽科)

惑星の研究を
目ざしているので、
紹介された本を
夏休み中に読破したい。

在校生
より

「自分の『思い』を
世の中に伝えたい」



べつき
戸次 聡史
NHK
(慶応大・商学部)

在校生
より

先生はすごい！
教員を目ざしてがんばろうと
あらためて強く思った。

「うちは教育しか
のこしてやれない」



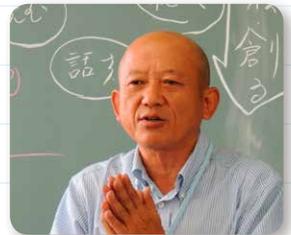
川戸 直美
公立中学校教諭
(東京女子大・文理学部日本文学科)

「ソニーから
電子マネー「Edy」
開発秘話」



宮沢 和正
楽天
(東京工業大・経営システム工学科)

「こたえは
気持ちの中にある」



吉田 賢治
博報堂
(早稲田大・法学部)

「客室乗務員について」



杉山 恭子
キャビンアテンダント
(共立女子短大・英語学科)

「部活と受験勉強を
両立する方法」



山岡 京子
編集者
(東京大・文学部)

「国家公務員、
外交官について」



廣瀬 愛子
外務省
(上智大・法学部国際関係法学科)

「商品開発研究は楽しい、
しかも一生役に立つ！」



仲屋 宏
ジュピターショップチャンネル
(千葉大・理学部化学科)

おじぎなど接客マナーも
教えてもらい、
将来の面接などにも
活かせると感じた。

在校生
より

海外とかかわる
仕事がしたいから、
本気で英語を勉強しよう。

在校生
より

この仲間となら、いつでも心は15歳

今年も、高女時代に入学された大先輩がた、41回生の元会長・松本紀子さんを筆頭に、53回生までの42名のみなさまが、9月30日(土)に学士会館に集いました。

活力・笑顔・品格に ひきつけられました

驚いたのは、開宴前から場内にあふれる笑顔と、張りのある声、お年(失礼)とは思えない滑舌の良いおしゃべり。それでいて上品な雰囲気、「なんでこんなに若々しく、優しく、エネルギーがあるのか」と感動してしまいました。



乾杯ご挨拶の鳥海美代子さん

幼い子、若い人と交り、刺激し合う

「幼児と遊ぶこと。幼い子を教えることね。エネルギーが沸くの」「音楽をもう半世紀以上教えているのよ。毎日1人教えるごとに新鮮な発見がある」「若い人たちと一緒に動いて、話し合うこと。お互いに刺激があって、生産的な交流をしているわ」

先輩がたは、きっと「若さとはどういうことか」を、身をもって若者に伝えているのだと思います。

貫くものがあるから芯ができる

「10代のころから、80半ばを過ぎた今まで、ゴルフのラウンドはやり続けているのよ」「毎日の朝昼晩の食事、買い物からお料理は、ずーっとひとりでやっているわよ。それが若さの基本。お漬物は家族の誰も私にかなわないわ(笑)」「NPO活動を始めて数十年。仕事でも日常でも、一心不乱に貫くものを持つこと。そうすれば、いざというとき邪魔するものに立ち向かえる」

篁寿会のメンバーはみな自分の中に大事な芯をお持ちだと拝察します。若さは年齢に関係ありません。先輩がたの日々を生き活きと生きる力は、年ごとに心を若返らせるよう。そんな感動を味わい、我が襟を正す半日でした。「来年もまた後輩に若さをください」

(吉田賢治・1975年卒)

楽しかったこと、辛かったこと

「高女の屋上に休み時間にみんなで集まってね、たわいもない話やジェスチャーゲームなんてはしゃいで、よく笑ったわ」「友達がどんどん疎開して、少なくなった。でも寂しくても友達と一緒に大事にしたわ」「空襲警報が鳴ると、職員室の地下室に、隠れろー!って逃げてね、大変な思い出よ」「私なんか、防火用水になっていたプールに落ちたのよ(笑)」

満面の笑顔で語り合う先輩がた。高女時代の思い出はいまも鮮やかに、不死鳥(フェニックス)のごとく蘇るようです。



篠辺会長もここではいじられるひとりの若者。



15歳のころに戻った若々しい笑顔が沢山。



2018年篁寿会のお知らせ

- 開催日：10月14日(日)
- 会場：学士会館
正午開宴

多くの方のご出席をお待ちしております。

『第25回 東京校歌祭』に初参加！

2017年東京校歌祭が、荒川区の公会堂『サンパール荒川』で10月1日に開催、都立高校・中等教育学校20校が集まる中、今回「校歌を歌い継ぐ会」が初参加しました。開会式では、藤井信紀さん(高校2年)が竹早のプラカードを掲げ入場しました。また、西川太一郎荒川区長(竹早高校13回生)が来賓の挨拶をしました。

参加者30名は13:00から、都立竹早高校、府立第二高等女学校の校歌披露を行いました。合唱部部长宮岡あや野さん(高校2年)、副部長の高橋来実さん(高校2年)らが指揮や伴奏などをしました。若く澁刺としたタクト、ピアノ伴奏でした。

参加者の中で最高齢94歳の松本紀子さん(元篁会長、篁41回生)、札幌在住の鳥海美代子さん(篁44回)、には温かい声援が沸きました。在校生10名、大学生などの若い歌声のリードに、練習会の成果も活かされ、全員息の合った大合唱となり、エールと大拍手を受けました。(古山浩之助・1964年卒)



第26回東京校歌祭

2018年11月3日(土祝日) 杉並公会堂大ホール 12時開場

二つの校歌に皆さんの声も！ 来年も在校生とのコラボで、多数のご参加をお待ちします。

申込は takamurakai@gmail.com にメールで！

または はがきで 〒101-0021 東京都千代田区外神田5-2-3 JR外神田ビル3階 プロックス内 古山宛

舞台の様子はこちらからご覧になれます。

<https://drive.google.com/drive/folders/0BxrGEDCorNX9VmdjVIVEaWNTdja>
高橋理事が撮影しました。

「第1回 シニア会懇親会」開催します！

シニア会は高校5回生から高校22回生の篁会員の集まりです。年齢で見れば、67歳以上の方々の集いとなります。高校10回生～22回生の各学年の幹事が中心になって、懇親会開催の準備を進めてきました。

この懇親会は『**学年を超えた同期会**』です。

クラス会・同期会・クラブ同窓会など、相乗り企画、大歓迎です。第1回は特別に、66歳以下の方々の参加も歓迎しています。

会場と日時 2018年9月29日(土) 12時開宴(受付11時30分から)

学士会館 2F 202号室

申込方法

- ・67歳以上の方々は、会報に同封の案内状の返信のはがきにてご連絡ください(切手をお忘れなく)。
- ・メールの場合は、(篁会メールアドレス) takamurakai@gmail.com 宛に『名前、卒業年次、連絡先』を書いて「シニア会出席」の旨、ご連絡ください。
- ・66歳以下の方は、上記メールまたは官製はがきで連絡をお願いします。「シニア会出席」と書き、氏名・卒業年次・連絡先を書いてください。
- ・はがきの宛先： 〒175-0083 板橋区徳丸1-9-8 関 文隆

同期会参加を希望する学年は、上記の篁会アドレスなどに連絡をお願いします。

すでに 10回生、16回生、18回生 は計画中です。

会場には「同期会〇〇年コーナー」を準備します。

シニア会懇親会実行委員会
委員長 関 文隆(1958年卒)

箎会教育基金・奨学生認証式

箎会では、2012年度より箎会教育基金を設け、在学生への奨学金授与を行っています。竹早高校生の将来の夢を実現するための一助になればと開設された制度です。2017年度も5月に校内で募集を行い、厳正なる審査によって3学年より奨学生の候補者を選定して頂きました。竹早高校総務部主任の柴田先生や青山先生(3年担任・竹早卒業生)には募集から選定まで大変お世話になりました。この紙面をおかりして御礼申し上げます。

今年度はA組平田優介さん、C組浅見友里加さん、F組河村平さん、齊木恵理華さん、中沢茉紘さんの5名に奨学金を授与することになりました。認定式は7月19日(水) 昼休み、校長室において行われました。学校側からは高田純一校長、瀬田栄治副校長、総務部主任柴田先生に参加して頂き、父母と教師の会長小島氏、箎会からは篠辺会長代理として中村理事が参列致しました。それぞれの生徒さんには奨学金6万円が授与され、今後の勉学に役立てて頂ければ幸いです。
(箎会教育基金事務局)

河村 平

私は大学に進学して、保健医療について深く学ぼうと思っています。そして将来は大学でも学びを活かし、人々の健康と医療技術の普及に貢献できればと考えているところです。竹早高校では素晴らしい先生方と良き友人に恵まれました。また、校風である自主自立の精神を培うことができました。今後も常に向上心を忘れず、自己研鑽を続けていきたいと思いをします。

浅見 友里加

私にはまだはっきりとした夢はありません。ですが、高校生活で様々な人々と出会い、人と人の繋がりや社会の動きについて考えることが増え、興味を持つようになりました。なので、大学では日本だけとは言わず、世界中の人間関係や社会の構造について学びたいです。今回、箎会の方々から頂いた奨学金を大切に使用して頂き、竹早の名に恥じぬよう努力していきます。

齊木 恵理華

私は好きなバイオの勉強科目を通し、私達の世代が担う事になる社会問題、例えば医療費の高騰や食料自給率の低下などの解決に貢献できる人になりたいと考えています。「社会人になったら、社会の役に立てる人になれ。」と両親に言われ育ってきた影響もありますが、農林水産業の再活性化に繋がる技術を開発し、地方都市でも経済的に豊かに暮らせるような社会を取り戻したいという思いがあるからです。

中沢 茉紘

私は将来、食品開発の仕事に就きたいと思っています。高校に入るまでは自分のやりたいことがあまりなかったのですが、竹早高校に入学して自分の好きなことが見つかり、勉強が楽しくなりました。竹早高校での生徒が主となって行事を作り上げるという経験を活かして、自分にしか考えられないものを開発して、人々に幸せを与えたいと思っています。

平田 優介

おそらく他の四人と違い、僕には定まった夢や目標がありません。奨学金を貰った時は文学部への進学を希望していましたが、今は教育学部へ進みたいと思っています。この目標も変わるかもしれません。そのため将来の夢とかなりたい職業についてははっきり答えられません。しかし、今自分にできる勉強を一生懸命して進学後は興味のあることや適していることを常に問い続けていきたいです。それが素晴らしい将来に繋がると信じ努力を続けるつもりです。



奨学生(第1期)の今



山本千夏(2012年卒)

「なぜ」を考えることが自分の核になっています

奨学金という形で高校生活を支えてくださったこと、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

私が高校生活で今でも自分の核になっているなあと感じることは、「なぜ？」を考えることです。私は、高校の授業では地学が一番好きだったのですが、それは「なぜ」をきちんと説明してくれること、そしてそれを知ることが面白いと感じていたからです。地学に限らず、理系の科目は「なぜ」がはっきりしていることが好きで、大学も理系の物理学科に進学しました。

卒業研究では宇宙についての勉強をしました。宇宙の始まりや今後どうなっていくかなどについて、実験や観測からではなく数式から導き出すということをしていました。物理は「なぜ」を突き詰めていく学問で、純粋に面白く、興味深く学ぶことができました。そんな簡単なものではありませんでしたが(笑)。

大学生活もあっという間に過ぎ、就職活動をするようになったとき、特になりたいものがなかった私はとても悩みました。おそらく、4年制の大学に進学する人のほとんどがそうだと思います。結局、私はシステムエンジニアになりました。ロジカルであることが求められる仕事なので、ずっと理系の勉強をしていた私には性に合っているなあと感じます。昨年の4月に就職したばかりでまだまだ分からないことばかりですし、嫌になることもあります。日々充実して過ごせています。

高校生活を思い返すと、本当にあっという間でしたが、その分貴重でかけがえのないものだと感じます。竹早高校は生徒の裁量権が多いと思いますし、それを活用してやりたいと思ったことはぜひ、どんどんやってほしいと思います。私は竹早出身であることに誇りを持っています。在校生の皆さんも卒業後にそう思えるよう、今の生活を思う存分楽しんでほしいです。



昨年好評の新感覚クロスワードパズルが再登場！

竹早山荘物語

～そして誰もが幸せになった～



作・廣川州伸(1974年卒)

下の文章を読んで、パズルを解いてみましょう。枠を埋めていくと、5文字のキーワードが浮かび上がります。

■竹早山荘に集まった容疑者たち

- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| ◇五月女祐太郎 | 若者 | ◇松永茂樹 | 大学教授 |
| ◇三野直子 | 共同オーナー① | ◇篠辺修 | 気象予報士 |
| ◇高倉孝生 | 青春実業家 | ◇薩田須美子 | 料理研究家 |
| ◇大貫祥子 | 共同オーナー② | ◇吉田賢治 | 神主 |
| ◇松沢由利子 | ミステリー作家 | ◇山岡京子 | ジャーナリスト |

秋の清里。30日……昔風にいえば**晦日(みそか)**に当たるその日、『清里自然の森山荘』の食堂に、10人の男女が集まっていた。そこはかつて『竹早山荘』といわれた施設である。

食堂の片すみでは8人の宿泊客と、山荘を復活させたいというプロジェクトの共同オーナー2人を加えた計10人の男女が、秋の**味覚**を楽しんでいた。

ちなみに、そのプロジェクトは航空会社や飲料メーカーが**多角経営**の一環で取り組んだもので、いずれ正式なファン드가立ち上がる予定だという。

食堂にはバーコーナーがあり、日本酒が入った**樽**が並んでいた。テーブルには山菜の天ぷら、川魚やジビエ料理などが並び、誰かが持ち込んだのか**鯖(さば)**の缶詰も開けられていた。まだ屋下がりだが、乾杯のビールに始まりワイン、ハイボールなど各自が好きな飲み物を頼んだあと、大きな四角い盆が運ばれてきた。その上には大徳利が10本、ポーリングのピンのように並べられている。

食事をしている10人のテーブルの上に大徳利がランダムに配られたころ、館内に大声が響き渡った。

『山荘に、ようこそ！自然に囲まれた山荘といえば豪雨や噴火が起きて孤立し、**霞**のなかで怪事件が起こるのが定番だが、ここでは何も起きない。食堂に集まった諸君は、それぞれ自由な**生き方**を選んできた。山荘の玄関は24時間365日、出入りも自由……そこに幸せを感じないか』

食堂の十人は落ち着いていた。そのときはまだ、誰かが用意した余興でも始まったと思っていた。それが世にも不思議な、誰も死なないミステリーの始まりであった。

清里には牧場を分割して学校の寮を誘致した**地区**があり、清里学校寮区と呼ばれている。昭和35年11月、竹早高校は『八ヶ岳寮』を完成させた。そこは東京府立第二高等女学校、都立竹早高等学校の同窓生が利用できた。その設立に尽力した故・小野政吉画伯には「夏休みに8回も行った」というエピソードが残されている。

その後『八ヶ岳寮』は『竹早山荘』と名前を変え、竹早高校関係者だけではなく誰でも利用できるようになり、今日では

『清里自然の森山荘』となっている。

そこは竹早関係者なら一度は宿泊した思い出の施設。庭は**野外劇**が上演できる広さがあり、周りにはある**植木**には竹早の生徒たちが植えたものも少なくない。周囲には他に**家屋**はなく、ちょっとした**隠れ家**のような風情となる。

集まった同窓生のなかで唯一の若者である五月女祐太郎は、大先輩のなかで**家畜**のようにおとなしかった。五月女にいわせると、この集まりは**だまし討ち**のようなものだ。

「だって彼女が見つかるといわれて参加したのに……出てきます。外の空気が吸いたくなかった」

そして五月女は、リュックを手にして食堂を出て行った。そのとき、なぜか徳利が1本ヨコになっていた。

「あら、もう飲んだのかしら。減りが早いわね」

新たなプロジェクトの共同オーナーに応募した三野直子が立ち上がった。

「五月女くん、上着を忘れて……庭に出て**蛎(ぶよ)**にでも嘸まれたら大変」

そして三野が食堂を出た。2本の徳利が倒れていた。

週末はテニスとゴルフに忙しい青春実業家の高倉孝生は、同級生たちと違って**体形**もあまりメタボになっていない。また**切れ長**の目の奥に秘めた情熱は変わらなかった

「ブヨは、この季節には少ないはず。三野さんも早とちりだな。ちょっとトイレ」

そして高倉が食堂を出た。徳利は3本が倒れていた。

三野とともに共同オーナーに応募した大貫祥子は、頼まれたらイヤとはいえない**素直**すぎる人生を送ってきた。

「それで入学式の日**優文(やさぶみ)**をもらって、うっかり付き合ってしまったの。え？ヤサブミを知らない……そうね。今でいうラブレター。あら大変」

そして大貫もまた、あわてて食堂を飛び出していった。徳利は4本が倒されていた。

ミステリー作家の松沢由利子は、いくつもの**山坂**を踏み越え、第一人者として知られるようになった。テレビ原作に使われたことで、人気に火が付いたという。



金栗四三先生を知っていますか？



栗社を離れて、他に何人の金栗があるか。高師を出てから而立第二高女の運動部を盛り立て、いゝ結果を収めたのが君の手程の一人

2019年NHK大河ドラマの主人公のことで竹早に取材があったと聞いたのは、一昨年秋のこと。日本がオリンピックに初参加したストックホルム大会のマラソン代表の一人が金栗四三(かなくりしそ、1891-1983)といい、第二高女で教鞭をとっていたことをその時初めて知った。このたび、ホームカミングデー第1回企画のなかで、先生を顕彰できないかと考えていたところ、

今年のTBSドラマ『陸王』でも注目されたという。そこで、改めて新聞資料でその事跡をたどってみた。

「マラソン王」として三度のオリンピック出場

東京高等師範学校(筑波大学の前身)在学中から、金栗先生は「マラソン王」と呼ばれ日本陸上界の第一人者だった。1912年のストックホルム大会には、2時間32分45秒の世界記録をもって臨み、優勝候補と目されていたが、猛暑で脱水症状を起こし離脱。そのまま沿道民家の介抱をうけ、棄権扱いとなってしまう。ベルリン大会が第一次世界大戦で中止となり、満を持した1920年のアントワープ大会では16位に終わって、大会後に地理の教諭として第二高女に着任した。すでに33歳だった3度目のパリ大会には学校の壮行会もあったが、途中棄権と、いわゆる結果を出したわけではなかった。しかし、女子スポーツ黎明期に海外の最新事情を見聞できた先生は、第二高女を拠点に女子運動競技の開拓へと邁進していった。

第1回東京女学生庭球大会

1921(大正10)年、金栗先生が中心となって企画された、時事新報社主催の東京女学生庭球大会は画期的だった。福澤諭吉によって創刊された『時事新報』の当時の紙面には、相撲や野球の早慶戦、隅田川の漕艇はあっても女子の運動競技についてほとんど見られない。この大会告知記事は異彩を放って登場し、電車大塚線(のちの都電)同心町下車・第二高女校庭が会場、「招待状なき男子お断り」で女子のみ来場自由とある。試合は軟式複合で39組。女子の活動に理解はまだ浅く、学校名の公表はなかったが、第二高女生の名も見える。驚くべきは、来場者数2千人という数字。宮家王女たちの馬車での来臨や内務省の啓発用活動写真の撮影もあるなか、11月1日、天長節の晴天下、金栗先生の号令「気を付け！」で開会となった。

竹早のスポーツ黄金時代を牽引

その翌年から女子聯合競技大会や全日本女子選手権競技大会が始まり、第二高女も出場した。年を追って、短距離走、バレー、バスケット、テニスで躍動する第二の生徒や、東京府女子師範学校(東京学芸大学附属高等学校の前身)との合同「竹早チーム」の活躍記事が多数見つかった。大会を開くだけでは、女子の競技人口拡大は望めない。五輪出場で築いた人脈を元に、新聞でスポーツによる自由な女性の表象を流布するという、金栗先生なりのメ

ディア戦略があったと考えられる。地方の遠征競技会出場や富士登山、修学旅行など校外学習の企画実施者でもあり、学校のPRマンでもあった。同窓生のため保谷に運動場も作っていた。一方、体育専任の三橋義雄先生は、陸上や球技の指導理論書『女子競技』(大正13年、広文堂)を著わした。そこには試合風景や第二の生徒に模範的競技姿勢をとらせた写真が多数掲載されている。先生方の熱意とともに「竹早チーム」の名が全国に轟いていた。下の『読売新聞』(1929年4月8日夕刊)掲載写真では、九州遠征旅行から帰京し、東京駅での誇らしげな金栗先生の姿が見える(前列右端、左端は上山辰二先生)。だが実は、この遠征は校長先生の反対を振り切ったものだった。

竹早を去ってのち

『竹早の百年』には、1927(昭和2)年着任の田中一元校長の管理方針と先生方の軋轢から内紛となったことが記されている。今回の調査で金栗先生も無関係ではなかったことがわかった。この写真の前年の秋、5名の若手教師が休職となったことから、50余名の生徒の盟休(集団不登校)事件が起きて、父兄会も学校方針をめぐり分裂。大きく新聞報道もされた。田中校長は金栗先生が生徒を煽動したとして辞職を要求。それに応じて1929(昭和4)年9月、第二高女を去っていかれたのだった。その後、故郷熊本の名に帰って、九州地方の競技大会企画や箱根駅伝の発展にも尽力し、陸上用「金栗足袋」の改良も進めた。戦後は熊本県の初代教育委員長にも就任。そして途中棄権から半世紀以上のち、1967年再びスウェーデンに招かれ、用意されたテープを切って、



ムーチ早竹の頭驛京東

54年8月6日5時間32分のユニークな最長ゴール記録保持者となった。

その年、贈られた色紙や短冊が、「体力、気力、努力」という座右の銘とともに、学校史のコーナーにひっそりと置かれていた。竹早のスポーツ黄金時代とは、金栗先生が日本女子スポーツ競技の普及街道を開き、激走した時代でもあった。もし、いま生きていたら、竹早チームの胸章・Tマークの金メダルを捧げたい。

(山口順子・1976年卒)

参照資料(文中外): 左上『読売新聞』(1924年7月30日) その他記事は『時事新報』マイクログリッド版、記事データベース・ヨミダス歴史館、朝日新聞蔵Ⅱビジュアルによる。『マラソンの父・金栗四三』展図録(玉名市立歴史博物館こころピア、平成14年)『たずさえて友と・写真に綴る「竹早の百年」』(2000年)等。金栗先生の在職期間は『竹早の百年』ではなく、『たずさえて友と』78頁が正しい。氏名の読み方は玉名市WEBサイトに従った。

*関連新聞記事は学校史コーナーのケースに展示しています。

学校の活動報告

箠会の皆様には竹早高校の教育活動のために、日頃から多くの御支援・御尽力を賜り、生徒及び教職員一同、深く感謝しております。

平成29年度は、新生竹早高校の完成年度であり、50分6時間授業と年20回の土曜授業を導入しました。7月には、計17名の講師による1年生を対象にした箠会特別セミナーを実施しました。各講師のお話は大変興味深く、生徒たちの視野を広げる契機となりました。9月に行われた竹早祭では、本年もお休み処「たかむら」で飲み物やお菓子を提供していただき、来場者をもてなしました。また、3年生徒5名に箠会教育奨学金をいただき、感謝しております。

大学合格状況は表1のとおりです。国公立大は今年も40人台を維持し、四難関国公立大にも合格者を1名出すことができました。部活動では、例年全国大会に出場しているダンスパフォーマンス部に加え、今年は吹奏楽部が東京都高等学校吹奏楽コンクールBIIで金賞を受賞するなどの活躍が見られました。

学校説明会等への来校者数は表2、入試の実質倍率は表3のとおりです。今年は、入試倍率がやや低下しましたが、依然高倍率を保っています。

今後とも、良き伝統を踏まえた竹早高校の教育活動をさらに発展させるために、引き続き御尽力いただきたく、お願い申し上げます。

平成29年度年間行事()は日付

4月	始業式(6)、入学式(7)、対面式(10)、1・2年課題テスト(10)、土曜授業(15～)、2・3年保護者会(15)、健康診断・体力テスト(20)、生徒総会(24)
5月	校外学習(2)*1、父母と教師の会総会(20)、体育祭(15)、
6月	中間考査(30～6/2)、進路ガイダンス(1年12)(2年19)(3年26)、授業公開(17)、保護者会(1・2年17)(3年24)
7月	期末考査(3～6)、1・2年模擬試験(10)、箠会特別セミナー(19)、終業式(20)、部活動夏季合宿(21～)*2、夏期講習(21～)、学校見学会(25～)
8月	部活動夏季合宿(～6)*2、学校見学会(～9)、British Hills 団体宿泊研修(15～17)、夏期講習(～25)
9月	始業式(1)、3年推薦・センター試験説明会(1)、1・2年課題テスト(1)、竹の子祭(7.8)、竹早祭(9.10)、1年宿泊を伴う防災訓練(22.23)、2年進路ガイダンス(25)
10月	学校説明会(9.28)、中間考査(20～25)、
11月	模擬試験(1)、開校記念日(7)、保護者会(2年11)(1年18)、国際理解講演会(13)、授業公開・学校説明会(25)、芸術鑑賞教室(27)
12月	期末考査(7～12)、1・2年進路講演会(20)、合唱コンクール(21)、学校説明会(23)、終業式(25)
1月	始業式(9)、1・2年課題テスト(9)、2年修学旅行(沖縄16～19)、推薦入試(26.27)、1・2年模擬試験(29)
2月	2年保護者のための進路講座(3)、帰国入試(16)、学力検査(23)
3月	卒業式(3)、学年末考査(6～9)、模擬試験(2年12.13)(1年22)、合格体験報告会(19)、球技大会(1年20)(2年22)、修了式(23)

*1 校外学習 1年:都内各所 2年:横浜 3年:東京アイズニールランド

*2 夏季合宿 サッカー、軟式野球、男子バスケットボール、女子バスケットボール、男子バレーボール、女子バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、男子硬式テニス、女子硬式テニス、吹奏楽、天文、箏曲

表1 大学合格状況

国公立大学	H30	H29	H28	私立大学	H30	H29	H28
帯広畜産		1		早稲田大学	31	40	39
北海道	1			慶応義塾大学	9	7	9
弘前	1			上智大学	17	7	16
東北		1		東京理科大学	11	17	22
秋田	1	1		明治大学	45	54	41
山形		1		青山学院大学	8	11	24
福島				立教大学	22	38	57
茨城		1		中央大学	29	19	34
筑波	2	2	6	法政大学	35	60	46
宇都宮	1			学習院大学	5	5	12
群馬			1	芝浦工業大学	17	33	32
埼玉	8	6	9	東京農業大学	19	22	15
千葉	3	2	6	國學院大學	9	10	6
お茶の水女子	1			成蹊大学	5	10	11
電気通信		1	2	成城大学	7	7	8
東京医科歯科	1			武蔵大学	10	17	13
東京外国語			2	明治学院大学	6	10	13
東京海洋			1	日本大学	34	44	58
東京学芸	3	3	3	東洋大学	41	86	76
東京芸術	1			駒沢大学	6	15	18
東京工業				専修大学	7	7	5
東京農工	3		2	津田塾大学	1	0	2
一橋	1			東京女子大学	4	2	1
横浜国立	5	3	4	日本女子大学	2	5	8
新潟	1	1	1	東京家政大学	3	0	9
富山	1		2	その他	72	125	192
山梨		1		私立合計	455	651	767
信州	1	1					
岐阜							
静岡		1					
京都							
大阪教育	1						
神戸							
香川							
長崎							
琉球			1				
高崎経済		1					
前橋工科	1						
埼玉県立							
首都大学東京	8	8	2				
横浜市立	1	2					
福井県立	1						
都留文科							
静岡県立	1						
長野大学	1						
北九州市立							
大阪府立		1					
気象大学校		1					
国立看護大学校		1	2				
職業能力開発総合大学校		1	1				
防衛大学校							
国公立合計	49	41	45				

数値は現浪のべ合格者数である。
H30はH30年3月末の数値である。
H28年卒業生は7クラス(他は6クラス)

表2 来校状況

	H29	H28	H27
学校見学会	2,879 (14回)	2,389 (12回)	1,930 (12回)
竹早祭	4,357	4,437	3,909
学校説明会	2,442	2,310	1,735

表3 入試状況(実質倍率)

	H30	H29	H28
帰国	1.54	2.29	1.85
推薦	男子	3.78	4.43
	女子	5.86	6.43
一般	男子	1.83	1.80
	女子	1.89	2.20
募集(クラス数)	6	6	7

理事会報告

平成 29 年度の理事会活動は以下の通りです。

●第 1 回理事会 6 月 5 日 出席理事 13 名 委任状 7 名

- 1) 承認事項
 - ・新会長推薦の件 (篁 71 回篠辺 修氏)
 - ・新理事推薦の件 (篁 75 回、遠藤和彦氏、助川裕樹氏、堀啓二氏)
 - ・退任理事 (篁 64 回古山浩之助氏)
 - ・総会進行次第について
- 2) 報告事項
 - ・総会準備進捗状況
 - ・特別セミナー準備について
 - ・会報編集委員会編成について
 - ・会費納入状況について

●第 2 回理事会 8 月 2 日 出席理事 11 名 委任状 8 名

- 1) 承認事項
 - ・新理事推薦の件 篁 75 回吉田賢治氏、同田村浩之氏
 - ・篁会次年度編集委員長に吉田賢治氏
- 2) 報告事項
 - ・平成 29 年度篁会総会の報告
 - ・篁会教育基金奨学金認証式の報告 (7 月 19 日、5 名に授与)
 - ・特別セミナー報告「人間と社会」体験学習への協力を本年より実施)
 - ・校歌祭参加進捗状況

●第 3 回理事会 10 月 3 日出席理事 16 名 委任状 8 名

- 1) 承認事項
 - ・Web サイト委員会の充実化を図る。
 - ・次年度総会とホームカミングデー「ワカタケル」
- 2) 報告事項
 - ・竹早祭出店「お休み処」報告
 - ・「人間と社会」体験学習の報告 (JR 東日本、全日空、味の素、東大)
 - ・会報編集委員会より会報編集委員会始動の報告
 - ・校歌祭報告 (10 月 1 日開催)

●第 4 回理事会 1 月 20 日出席理事 18 名 委任状 7 名

- 1) 承認事項
 - ・来年度特別セミナー実行計画案について
 - ・来年度予算案について
 - ・会報へ掲載する Web サイト委員会からの記事について
 - ・同窓会連絡協議会・校歌祭に有志グループが参加することについて
- 2) 報告事項
 - ・特別セミナー委員会より高校サイドとの反省会の報告
 - ・平成 29 年度収支報告書の中間報告
 - ・シニア会準備状況

●第 5 回理事会 4 月 3 日 出席理事 15 名 委任状 7 名

- 1) 承認事項
 - ・今年度決算報告と 2018 年度予算案について
 - ・篁会会報内容に関する最終確認
 - ・新理事推薦の件 (篁 76 回岩田良輔氏、篁 116 回大森美樹氏、篁 117 回東島粹生氏)
- 2) 報告事項
 - ・次年度総会とホームカミングデー「ワカタケル」の詳細提案
 - ・名簿委員会より名簿未登録者の確認及び篁会未入者について
 - ・特別セミナー委員会より次回開催に向けて進捗状況の説明
 - ・会報と Web サイトの今後について
 - ・規定改定に関する提案

<その他>

- 4 月 7 日 竹早高校入学式に参列
- 5 月 15 日 竹早高校体育祭を観戦
- 6 月 17 日 平成 29 年度篁会総会
懇親会：ホテル東京ガーデンパレス
- 7 月 19 日 篁会教育基金・奨学生認証式
- 7 月 19 日 特別セミナー開催
- 9 月 10、11 日 竹早祭に「お休み処」出店
- 9 月 30 日 第 10 回篁寿会開催：学士会館
- 1 月 20 日 新年会：竹早高校、父母と教師の会との合同
- 3 月 3 日 竹早高校卒業式に参列
- 4 月 2 日 会計監査実施

篁会 平成 29 年度収支決算 (案)

平成 29 年 4 月 1 日より平成 30 年 3 月 31 日まで 単位：円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	19,300,371	奨学金 (特別会計から)	300,000
(特別会計を含む)		教育援助金(特別会計から)	100,000
入会金 (新入会員 224 名)	1,792,000	贈呈記念品費 (1 年・3 年)	223,638
年会費	2,863,000	篁会特別セミナー (1 年)	119,808
総会会費 (決算後のクレジット分)	196,000	会報発行費	2,742,120
受取利息	8	竹早祭出店	46,702
寄付 (レンタルサービス)	238,000	篁寿会	73,198
	5,089,008	学年幹事連絡会	0
		活性化プロジェクト (新規)	25,045
雑収入 (竹早祭募金)	32,750	総会開催関係費 (立替分含)	459,651
雑収入 (T シャツ売上)	38,000	総務費	139,806
特別会計へ	70,750	Web サイト運営保守	922,020
		特別会計分除く小計	4,751,988
小 計	5,159,758	小 計	5,151,988
		次年度繰越金	19,308,141
合 計	24,460,129	合 計	24,460,129

特別会計			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
周年事業基金 前年度繰越	1,628,994		
教育基金 前年度繰越	1,388,763	教育基金：奨学金 (3 年)	300,000
雑収入より	70,750	教育基金：教育援助金(全学年)	100,000
高女記念碑基金前年度繰越	243,600	小 計	400,000
定期預金	12,000,000	次年度繰越	14,932,107
基金合計	15,332,107	基金合計	15,332,107

篁会 平成 30 年度収支決算 (案)

平成 30 年 4 月 1 日より平成 31 年 3 月 31 日まで 単位：円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	19,308,141	奨学金 (特別会計から)	300,000
(特別会計を含む)		教育援助金(特別会計から)	100,000
入会金 (新入会員)	2,240,000	贈呈記念品費 (1 年・3 年)	220,000
年会費	3,000,000	篁会特別セミナー (1 年)	120,000
受取利息	100	会報発行費	3,000,000
寄付	250,000	竹早祭出店	70,000
雑収入	100,000	篁寿会	100,000
		学年幹事連絡会	10,000
		活性化プロジェクト	170,000
		＊シニア会	100,000
		＊校歌祭	70,000
		総会開催関係費	300,000
		総務費	150,000
		Web サイト運営保守	920,000
		予備費	130,100
小 計	5,590,100	小 計	5,590,100
		特別会計へ移動	14,861,357
		次年度繰越金	4,446,784
合 計	24,898,241	合 計	24,898,241

特別会計			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
周年事業基金 前年度繰越	1,628,994	活性化プロジェクト補助金	200,000
教育基金 前年度繰越	1,059,513	奨学金 (3 年)	300,000
高女記念碑基金前年度繰越	243,600	教育援助金 (全学年)	100,000
定期預金	12,000,000	小 計	600,000
基金合計	14,932,107	次年度繰越	14,332,107
		基金合計	14,932,107

注：収入の総会会費・篁寿会会計は基本別会計の為なくし、補助金出金とした

箆会ホームページは、会の活動の報告や母校の情報提供、また卒業生同士の交歓の支援などに役立つサイトをめざしています。よりよいホームページにしていくために、みなさんのご協力が欠かせません。よろしくお願いいたします。



PCのトップ画面。ホームページはスマホにも対応しています。

■ 会報誌のバックナンバーが読めます



1990年の創刊号から、昨年(2017年)会報No.28までの会報がPDFファイル化されています。ダウンロードしてお読みください。

■ Web同窓会システムが稼働しています



「Web同窓会システム」では、ご自分の会員情報の確認や、同級生・先輩後輩の検索、会費のお支払履歴の確認などができます。ログインIDとパスワードは、会報に添付されていますので、ぜひ一度ログインしてみてください。なお、パスワードはご自分で変更することができます。

■ 箆会年会費のクレジット決済もできます



年会費は2口(2000円)以上となります。2口以上の口数をご入力ください。
*なお、クレジット決済の手数料は箆会が負担します。(会報と同封の郵便振替用紙でご入金いただく場合は手数料がかかります)

■ 箆会オリジナルグッズを購入できます



校章入りのオリジナルTシャツ(2000円)を販売しています。制作実費、送料などを引いた純益は、箆会教育基金に入れられ、在校生への奨学金の原資となります。カラーやサイズも豊富です。くわしくはホームページにてごらんください。

訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

【卒年】姓(旧姓)名(クラス) 逝去年月日・敬称略

■ 高女・専攻科

【1930年卒】木原(佐々木)喜代子(乙) 2017.1.19 【1931年卒】大島(川上)ひろ代(乙) 2017.2 【1932年卒】安藤(田中)千穂子(甲) 2007.6.19 / 福島(西)仲子(甲) 2016.6 【1935年卒】橋本(佐々)松子(白) 2017.3.19 / 林(大林)千家(白) 2010.11.19 【1936年卒】冠木(戸田)知(紅) 2017.4.29 / 後藤(児玉)久子(紅) 2017.2.2 / 坂本(上野)好子(白) 2014.2 / 田辺(落合)いそ子(白) 2016.8.2 / 角尾(浦野)たま(白) 2010 【1937年卒】大島(田中)ミホ(紅) 2012 【1939年卒】大木(渡辺)すみ子(白) 2016.9.20 【1940年卒】稲葉(桜井)すみ(白) 2017.6.18 【1941年卒】峰村(佐藤)愛子 2017.1.29 【1942年卒】出浦(小野津)恵美 2016.6.29 / 大澤(白田)正子 2016.10.11 / 斉藤(秋山)桂子 2017.2.20 / 谷(宇佐見)たみ 2017 【1943年卒】神村(師岡)みえ子 2010.2.5 【1944年卒】岡本(今村)昌江 2016.4.4 / 武田(窪寺)信子 2017.2.29 / 鳥海(那須)美代子 2018.2 / 渡辺(母里)恒 2017.3.4 【1945年卒】青地(安藤)昭代 2016.11.4 / 秋山(稲木)美重 2016.10.22 / 上田(天野)節子 2013.10.7 / 大坪(梅山)薫 2016.12.19 / 菊地(岩田)操 2016.5.27 / 中村(松田)淑子 2016.9.19 / 橋本(鳴海)京子 2016.11.28 / 水町(鈴木)昭 2016.10.29 【1946年卒】五十嵐(好田)祥子 2017.6.29 【1948年卒】萬里小路(藤澤)テル子 2017.7.22 【1949年卒】多賀(飯田)泰子 2017.3.14 / 富安(太田)光子 2017.2.15

■ 高校

【1950年卒】荒川(大河内)昭子 2013.8 / 大谷(金田)圭代 2017.1.5 【1951年卒】清水(沢井)温子(D) 2016.9.5 【1952年卒】岡崎(大金)三江子 2017.2.13 / 田口(田村)スミ子 2016.5 / 吉沢(三橋)映子 2017.8.1 【1953年卒】伊藤(山岸)悦子(C) 2017.3.27 / 春田(藤沢)礼子(B) 2016.8 / 保坂(松永)宏子(A) 2017 【1955年卒】伴薫(B) 2017.2.8 【1957年卒】末松(志田)美知子(F) 2015.7.10 / 棚橋(大熊)照子(E) 2015 【1958年卒】吉田 實(E) 2011.10.2 【1959年卒】福嶋(川上)浩子(B) 2017.5.2 【1960年卒】堀越 郁子(C) 2012.5.7 【1961年卒】木地本(具島)禎子(E) / 土屋 真一郎(E) 【1962年卒】浦山(原田)興子(C) 2016.4.2 / 長谷川(笠原)宏子(F) 2004 【1965年卒】中村(宮地)公枝(A) 2016.12.23 【1966年卒】棚橋(小原)富美子(C) 2017.1.5 / 森口(小暮)アツ子(B) 2002.10 【1968年卒】小中(佐藤)裕子(E) 2016.8.26 / 橋本(安藤)ひろみ(F) 2012 【1969年卒】赤穂 信明(A) 2015.12 / 小山(細井)孝子(E) 2016.1.28 【1970年卒】池田(阿部)まり子(C) 【1971年卒】橋本 正己(D) 2018.3 【1975年卒】大塚 廣人(B) / 西田 耕太郎(A) / 森(北村)真理子(E) 【1976年卒】斉藤 美智子(E) 2016.1.19 / 松永(駒田)和子(D) 2017.11.27 【1980年卒】一條(中川)京子(B) 2016.5.19 / 下平(森田)恵美子(D)

■ 教員

工藤 康衛 2017.4.18 / 大和 昭浩 2016.3.26 / 片寄 正道 / 福島 栄儀 2015

「篁会お休み処」は 本年も大盛況!! 竹早祭に模擬店を出店

好天となった9月9日(土)、10日(日)に竹早祭が開催されました。校内にあふれる自由闊達な解放区の空気は、伝説の全学スト世代の私たちにも、なつかしさを感じさせてくれました。受験前の見学と思われる親子の姿もみられ、竹早人気が続くことを願うばかりです。

篁会主催の模擬店「お休み処」は初回の2006年以来、学校との連携を図るスペースとして継続され、好評を博しています。私も初日の午後からでしたが、お手伝いにつながりました。

無料提供のコーヒーは薫り高い本格ドリップ。「毎年このコーヒーが楽しみなの」と訪れる保護者のかたも。冷たいソフトドリンクは在校生に人気です。順番待ちの列を優しく整理してくださるのは、家庭科の三野先生でした。お隣が職員室なので、マイカップ持参でくださる先生もいらっしゃいました。

竹早祭は今年から校長先生の号令(?)で2・3年生全クラスの「演劇」がプログラムとなったそうで、上演後に晴れやかなコスチュームでやってきて、テーブルを囲む若者たちの姿が印象的でした。



左から篠辺会長、大貫理事、三野理事、須長恵子さん、薩田副会長



お品書き等の揮毫：
森岡静江さん(1976年卒)

会場をデコレーションしたのは、76回生の山口順子さんで、和紙風のグリーンマスキングテープで見事に竹のアートとして黒板が変身しました。各テーブルに設えられたマットには篁会への意見、120周年記念事業へのアイデア等を出していただくよう設計され、回答用のポストイットもおかれていました。OBのミニクラス会として利用される面々も。

そんな会場を訪れたのは、76回生の二胡奏者・出倉均さんです。在校生にも二胡のあつかいを教えたり、よい交流の場となりました。深い悠久の音色とコーヒーの香りにつつまれ、贅沢なひとときでした。

こうしたイベントをかさねてこられたのは、篁会のみなさんのチームワーク、絶え間ない準備の成果だと思います。二日間の動員数は約1,100人、任意で募った2日間の寄付金は総額32,750円になり、篁会の教育基金として活用されるとのことです。
(伊坂道子・1972年卒)

2018年竹早祭は、9月8日(土)～
9日(日)の予定です。

部活動OBOG会紹介



1958年創部以来、60周年を迎える陸上部OBOGは記念の大会合を企画中。写真は2016年7月に、創部者豊泉和男氏(写真3列右から3番目、笹会報14号に記事執筆)はじめ年齢差45歳になる幅広い年代層16人が集まった時のもの。当時の練習風景や解体されてしまった旧国立競技場で汗を流したことなどなつかしい思い出話が尽きなかった。2009年にも同様の集まりを行っているが、笹山先生ご存命中に開催できなかったことが悔やまれる。(赤木宏充・1976年卒)



軟式テニス部は2年に一度くらいのペースで、71回生、72回生、75回生を中心に、集いの宴を開いています。75回生のコーチ・指導をしてくれたのが篠辺会長、高倉副会長を中心とした71回生と72回生ということで宴会も強い師弟の絆を中心に楽しくまとまっています。集えば気持ちは約半世紀タイムスリップ。選手だったころの打ち方のクセまで思い出して、語り合っては和気あいあい。貴重なタテヨコのつながりを皆さん大切にしています。(吉田賢治・1975年卒)



1973年4月に創設した硬式テニス同好会はたった6名での出発だったが、その秋「部」への昇格手続きをしたころには9名になっていた。この写真は76回生卒業アルバムのもので、1975年撮影だったかと記憶。あれから30年を経て、2005年のOB会合には約25名が集したが、残念なことに記念撮影をしなかった。いま、男女合わせて50名以上の大所帯だと聞き、発展ぶりを大いに喜んでいる。(初代部長・山下明泰・1976年卒)



バレー部OB・OG会では毎年、6月の総会に加え、会長の三浦氏(1974年卒：写真中央)に対する支援を名目に、12月初めに「力会」を開いています。会の名称は、顧問をしていただいた故・大石力先生のお名前に因んでいて、1973年卒から1980年卒が参加しています。親しい語りの中、高校時代に比べれば少しは大人になったかと思うのも束の間、かつての(今でも)ピチピチした女性から久しぶりに「〜くん」と呼ばれば、心は瞬時に時空を超えてときめいたりします。最近、有志で登山や旅行に出かけるようになって、交流の幅が広がっています。(内田直人・1977年卒)



竹早高校山岳部は現在休部中ですが、1972年には部員が20名ほどいて北アルプスの縦走などを行っていました。1978年からはOB会が開かれるようになり、池袋の居酒屋に毎月集まっています。メンバーは15名程度で、山行の計画・報告、会報の編集などを行っていましたが、最近は真面目な相談はメールで行い、会合はほぼ飲み会の場となっています。メンバーの高齢化・体力低下にもかかわらず、山では一応岩と雪と氷を登り、ボルダリングにも行ったりしています。写真は昨年槍ヶ岳中崎尾根に行った時のものです。(新井隆・1975年卒)

笹会では、縦横のつながり交流を支援します

部活動のOBOG会など、世代を超えての交流がより活発になることを願って、ご希望があれば名簿情報等可能な範囲で提供いたしますので、お問い合わせください。また、交流会開催後に、ぜひ写真と200字前後の原稿をメールでお寄せください。会報に掲載させていただいた交流会には笹会より5000円分の商品券を差し上げます。

就活応援特別セミナー

第1回ホームカミングデー・ワカタケる

2018年6月24日(日) 12:00開始・竹早高校内

篁会総会、ランチ交流会のあと、校内各所で各種イベントを行います。

大学生や第2新卒を対象として、「就活応援特別セミナー」を企画しています。

就活を勝ち抜く秘訣を、ぜひゲットしてください。

出演 篠辺修 篁会会長・ANAホールディングス株式会社取締役 副会長、他

特別セミナー講師陣による模擬面接なども予定。

*リクルートスーツ着用の必要ありません。

篁会役員

〈平成30年4月現在〉

会長	篠辺 修	1971年卒	理事	高橋 政行	1973年卒	理事	田村 浩之	1975年卒
名誉会長	小林 正基	竹早高校校長	理事	花澤 聖子	1973年卒	理事	山口 順子	1976年卒
顧問	古関 憲一	1977年卒	理事	大貫 祥子	1974年卒	理事	青山 俊也	1977年卒
顧問	星野 昌子	1950年卒	理事	川戸 直美	1974年卒	理事	飯塚 均	1977年卒
顧問	松本 紀子	1941年卒	理事	三野 直子	1974年卒	理事	戸次 聡史	1982年卒
副会長	中村 光宏	1971年卒	理事	姫野 賢治	1974年卒	監事	佐藤美沙子	1964年卒
副会長	高倉 孝生	1971年卒	理事	宮沢 和正	1974年卒	監事	橋本 正己	1971年卒
副会長	薩田須美子	1972年卒	理事	松永 茂樹	1975年卒	アドバイザー	古山浩之助	1964年卒
理事	松澤由利子	1970年卒	理事	吉田 賢治	1975年卒	アドバイザー	香川 洋子	1968年卒
理事	塩見 健	1972年卒	理事	遠藤 和彦	1975年卒	アドバイザー	岩野 英子	1968年卒
理事	加藤幸太郎	1972年卒	理事	助川 裕爾	1975年卒	アドバイザー	吉岡 新	1969年卒
理事	伊坂 道子	1972年卒	理事	堀 啓二	1975年卒	アドバイザー	水田 茂夫	1971年卒

会報誌編集委員会

委員長	吉田 賢治	1975年卒
委員	吉岡 新	1969年卒
	松澤由利子	1970年卒
	薩田須美子	1972年卒
	大貫 祥子	1974年卒
	川戸 直美	1974年卒
	姫野 賢治	1974年卒
	廣川 州伸	1974年卒
	三野 直子	1974年卒
	遠藤 和彦	1975年卒
	助川 裕爾	1975年卒
	堀 啓二	1975年卒
	松永 茂樹	1975年卒
	山岡 京子	1975年卒
	佐々木章子	1976年卒
	山口 順子	1976年卒

篁会報



発行日
発行

2018年4月27日
篁会

〒112-0002
東京都文京区小石川4-2-1
東京都立竹早高等学校内
連絡用電話 090-8853-1901
<http://www.takamurakai.com>
篁会 会報編集委員会
共立速記印刷株式会社
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-24

編集
印刷

